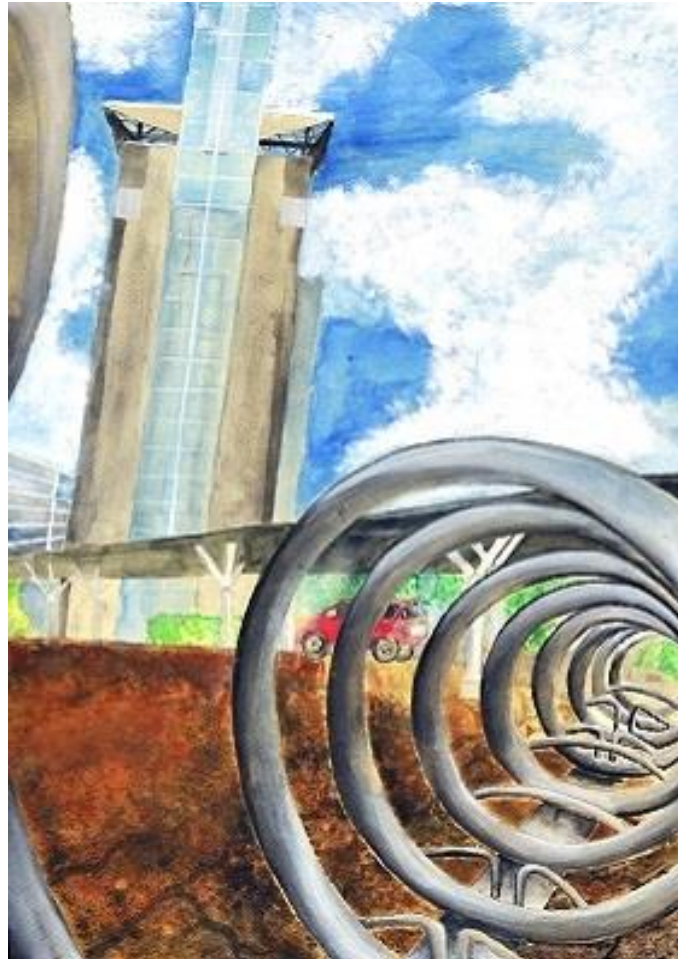




NO.157
 令和4年10月発行
 一般社団法人 埼玉県校外教育協会
 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課内
 TEL：048-830-6748
 ホームページ

特集「令和3年度 校外教育協会委嘱研究」



令和3年度 第56回「郷土を描く児童生徒美術展」知事賞受賞作品

「のぞく青空、市役所と」
 本庄市立本庄南中学校 1年（当時） 南原 心咲 さん

（作者から）
 休日の本庄市役所。
 一台も止まっていない自転車スタンドから覗いた庁舎が、とても立派で誇らしかったので描きました。

主な内容

・会長あいさつ	(2)
・令和4年度通常総会、校外教育研究委嘱	(3)
・令和3年度校外教育協会委嘱研究の概要	(4～7)
・第57回「郷土を描く児童生徒美術展」	(8)



指導者の工夫や如何に

埼玉県校外教育協会会長 村上博俊



今年も郷土を描く児童生徒美術展の審査では、また、感心させられる、愛すべき作品に巡り逢った。指導者はどの様にモチベーションが上がるようにご指導されているのだろうか。子どもたちは、どの様にモチベーションを上げて取り組む様になっていくのだろうか。作品に感心するとともに、指導にも関心がわいた。

まずやってみる、そうすればスイッチが入るものだ。

だが、同じやるにしても、だいぶ違う。「しょうがない」からやるではなくて、やりたくて「しょうがない」。そんな子供がたくさんいる学校。「活力ある学校」は同じ「しょうがない」でも全く違う。

「やらない。嫌だ。やるもんか！」・・・これは、ありえない！！？

- 1 「しょうがない」からやる。
- 2 本当は、やりたくないがやる。
- 3 いやいやながらもやる。
- 4 やらなくてはならないのでやる。
- 5 がんばってやる。
- 6 やっているうちに面白くなる。
- 7 やる気スイッチが入る。
- 8 自分から、やりたくなってくる。
- 9 面白い、楽しい、止まらない。やりたい。
- 10 やりたくて「しょうがない」！！



(審査風景)



郷土を描く児童生徒美術展に当てはめると・・・どんな絵がいいかよくわかる。

「しょうがない」から描く→やっているうちに面白くなる→描きたくて「しょうがない」
同じ「しょうがない」という言葉でも全く違う様子が浮かんでくる。

モチーフという言葉。この展覧会では「郷土を描く」などの「郷土」がモチーフだ。

モチベーションはモチーフの派生語だそうだ。

子どもたちは、すでに郷土を描くというモチーフから、モチベーションを得ている。

そこから、さらに指導者や周りから、何かを得て、化学変化を起こし「やりたくてしょうがない」感情があふれているのではないだろうか。

令和4年度 通常総会

令和4年6月10日(金)に、埼玉県庁教育局分室で令和3年度通常総会を開催いたしました。

当日は、令和3年度決算などの2議案が提案され、全てが原案のとおり承認されました。

校外教育研究委嘱



令和3年度研究委嘱校による研究の概要については、次ページ以降に掲載していますので、御覧ください。また、令和4年度研究委嘱校及び研究テーマは以下のとおりです。



《令和4年度校外教育研究委嘱校及びテーマ》

川口市立安行小学校

「地域とともに学ぶ
環境学習・活動の創造」

城山学園 坂戸市立城山小学校 ／城山中学校

「主体的に学ぶ児童生徒の育成
～地域の教育活動を活かした
豊かな体験活動を通して～」

神川町立神川中学校

「地域に学ぶ豊かな
体験学習を通した『地域に
貢献できる生徒』の育成」

久喜市立栗橋東中学校

「地域の教育力を生かした
学習活動による地元愛に
満ちた生徒の育成」

「潤い自然園を軸とした体験活動の充実による、積極的に環境と関わり生き生きと学ぶ児童の育成」

委 嘱 校 さいたま市立大宮西小学校

1 研究主題

本校はさいたま市西区の住宅街の中に位置しており、全校児童数が800名程の大規模校である。敷地内にある「潤い自然園」という約1300㎡の広さの自然広場を始めとして、自然の豊かさが特色の1つとなっている学校である。学校目標として「自他共愛」を掲げ、「自分のことを大切にし、他人（友達や周りの人たち）のことも同じように大切にする」という心を育む教育を目指している。

2 本校の取組

(1) バケツ稲の栽培体験

第5学年の社会科の学習と関連させ、食糧生産に関わる人々の工夫や努力を体験的に捉えることを目的として、JAグループの事業（やってみよう！バケツ稲づくり）を活用したバケツ稲の栽培体験を年間を通して行った。稲作の1年間を追った児童は、体験的にその大変さや自然を相手にする価値を味わい、日々、米が食べられている背景に生産者の工夫や努力があることを考えることができた。



(2) 「潤い自然園プロジェクト」を通じた体験活動

本校では、第6学年の総合的な学習の時間で、「潤い自然園プロジェクト」として、校内の自然園をより豊かにする実践を行っている。令和3年度は、自然園の生態系調査に始まり、児童自らが自然園に必要なことを探求しながら、「夢の自然園」のプランを描いた。そして、そのためにできることを分析し、ピオトープの水質改善、校内で身近な場所にするための掲示板作成、畑の土壌改良など様々な活動を行った。



3 成果と課題

成果 自然を扱う体験活動を多く行う中で、児童が学習を自分事として捉え、主体的・対話的に取り組んでいた。また、自然のよさや、自然を大切にする行動についての思考を深めるような発言や記述が見られ、各教科等で身に付ける資質や能力の育成がより深まった。

課題 体験活動を設定する中で、各教科等の授業時数を適切に管理する必要性があった。今後も校外学習として体験活動を積極的に取り入れていく中で、より教科横断的にカリキュラムを組む必要がある。また、今後は地域人材との連携も図り、学校と地域でつくる学びを目指したい。

「地域や学校の特色を生かした 体験活動による心豊かな児童の育成」

委 嘱 校 熊谷市立江南南小学校

1 研究主題

- (1) 研究テーマ 地域や学校の特色を生かした体験活動による心豊かな児童の育成
- (2) テーマ設定の理由

豊かな自然環境に恵まれた校内外を生かし、体験活動による教育を充実させることにより、児童が自分たちの地域や学校のよさを再認識することができ、さらに、地域との連携を深めることにより、心豊かな児童の育成が図れると考え、本研究テーマを設定した。

2 本校の取組

- (1) 校内での野菜作り・一鉢栽培
 - ① 学年園・学校園による野菜の栽培
 - ② 一人一鉢栽培
- (2) 栄養教諭による地域野菜を取り入れた活動
 - ① 竹の子の皮むき体験
 - ② トウモロコシの皮むき体験
- (3) 地域農家の協力による体験活動
 - ① 田植え・稲刈り体験
 - ② ブロッコリー農家の見学
- (4) 小中学校の取組による地域との連携
 - ① 3校合同防災訓練
- (5) 地域の人材活用による体験活動
 - ① 放課後子供教室（おもちゃ作り・勾玉作り）
 - ② 高齢者施設訪問
 - ③ 地域の指導者活用（江南音頭指導・書きぞめ指導）
 - ④ 感謝の会（スクールガードの方々対象）
 - ⑤ 読み聞かせ



3 成果と課題

- (1) 研究の成果

学校内の畑や花壇、地域の田畑など、校内外の環境を有効活用し、自然環境を生かした体験活動を充実させたことにより、自然を大切にしたり、植物の世話や成長を楽しみにしたりすることができ、豊かな心を育むことができた。また、地域の人材活用により、専門的な知識や経験による指導や環境作りなどの協力をいただき、児童にとって充実した体験活動ができた。

- (2) 今後の課題

地域や学校応援団の方々の高齢化が見られ、新たな人材の確保が必要である。また、コロナ禍で保護者の学校応援団の活用は、お願いしづらかった。さらに、例年行っていた行事や活動も、教職員の異動等により、準備や活動内容、指導者との連絡方法など、引継ぎを確実にしていく必要がある。

「2020 オリンピック・パラリンピックを盛り上げよう」 ～心を込めた花で明るい街づくり～

委 嘱 校 和光市立第二中学校

1 研究主題

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い1年延期された、東京2020大会の開催地の1つである和光市では、大会を盛り上げるために様々なイベントが計画され、実施されてきた。この一生に一度の「世紀の祭典」に関われることは、私たちにとって大いに意義深いことである。和光市では、「心を込めた花で明るい街づくり」(令和2年度市協働事業)をボランティア団体の「和光おもてなし隊」が立ち上げ、本校はモデル校として令和2年度より参画している。概要は、各国から来場する選手・関係者を歓迎するため、また多くの市民の関心、応援を求めるため、学校で育成した花プランターを駅前広場に設置するものである。学校では、地域の方々の支援をいただき、花の育成期間中に生徒が熱心に世話をしてきた。この取り組みを通じて、オリンピック・パラリンピックの精神・意義の理解を深め、地域の方々との交流を通じて地域環境及び環境美化への意識を高めていきたい。

2 本校の取組

(1) 研究計画

令和2年3月	和光市協働提案事業「心を込めた花で明るい街づくり」採択
4月	和光市立第二中学校がモデル校に指定される。
11月	花苗(パンジー)学校搬入、植栽・育成が開始される。
12月	パンジーのプランター16台、駅前に展示。
令和3年2月	おもてなし隊による「オリンピック・パラリンピック教室」
4月	「心を込めた花で明るい街づくり」の集い
5月	夏季花苗(マリーゴールド・日々草)植栽、育成開始。
7月	プランター16台、駅前に展示。「心を込めた花で明るい街づくり」の集い開催。
7月	聖火リレー見学

(2) 研究のねらい

- ① 地域の環境を自分の手で守る意識を高める。
 - ・花を育てる花育などの環境美化活動を通して、優しさ、美しさを感じる心を育成する。
- ② 東京オリンピック・パラリンピックへ出場する選手への応援
 - ・多様な国や地域の文化の理解を通じて、多様性の尊重や国際平和に寄与する態度を培う。
- ③ ボランティアマインドの醸成
 - ・地域活動を通じて、ボランティアへの関心を高める。

以上の研究計画及び研究のねらいのもと、緑化を含めた校区の環境整備、年間を通じた花の植栽、プランターの駅前展示に取り組んだ。



3 成果と課題

「おもてなし」を実現するために花いっぱいのプランターで遠方から和光市を訪れる人々を歓待する取り組みは、尊い活動であると考えられる。この取組を通じて、本校の生徒が「おもてなし」の真髄とは何かを考えさせられる素晴らしい機会となった。併せて、「おもてなしの心」の根本にあるものについての理解を深めさせることで、一人一人に住みよい社会・地域を築くために大切なことは何か、考えさせたい。



「地域の伝統文化を学ぶことを通して、 主体的に生きることのできる生徒の育成」

東秩父村立東秩父中学校

1 研究主題

(1) 研究テーマ

地域の伝統文化を学ぶことを通して、主体的に生きることのできる生徒の育成

(2) 研究のねらい

地域の方を講師として招き、地域の伝統文化や歴史について学ぶ機会を増やし、自分の育った地域を誇りに思うとともに、自分にも自信をもった生徒を育成し、生徒の自己肯定感や発信力の向上を図る。



《卒業証書の紙すき》

2 本校の取組

(1) 総合的な学習（全学年）

ア オリエンテーション「地域の文化を知る」（4月28日）

例年、地域の方を講師として招き、地域の伝統文化や地域の歴史について講演をしていただき、そのことを通して、コースに分れて体験学習を行う意義や目的を理解した。

イ 各コースに分かれての体験学習（5月～9月）

地域の方を講師として招き、各コースの受入れ人数や生徒の希望を調整し、和紙・和太鼓・版画・三味線コースの4コースに分かれ、毎週木曜日の総合的な学習の時間を使い、体験学習を実施した。

ウ 成果発表会（9月）

9月18日（土）、講師の方を招いて成果発表会を行った。3年生のグループ長を中心に講師の方の紹介や成果の発表を全校生徒の前で行った。例年は、保護者にも公開しているが、令和3年度はYouTubeを用いて、保護者に限定配信をした。

(2) 卒業証書用紙の紙すき体験（3年生）

和紙センターに出向き、ユネスコ無形文化遺産である細川紙の伝統工芸士の方々の指導のもと、3年生が一人一人、自分の卒業証書用紙を作成した。

(3) 竹縄（たかなわ）づくり体験（1年生）

竹を薄くはいて編んだ竹縄は古くからあったが、明治時代以降、堅牢で柔軟な高品質の竹縄は東秩父村の特産として、昭和20年代まで山間農家の大きな収入源となっていた。昭和30年代からナイロンロープ等の製品が普及し、竹縄の製作技術が消滅する恐れがあった。技術伝承を「東秩父村竹縄技術保存会」を中心に進めてきた。8年前から、地域の文化を学ぶ一環として、1年生が竹縄づくり体験を行っている。

令和3年度は、12月10日（金）に萩平公会堂で、保存会の方を講師として竹縄づくり体験を行った。

3 成果と課題

(1) 研究の成果

- ・体験学習については、新型コロナウイルスの影響で令和2年度は実施できなかったが、3年生がグループリーダーとして、よりよいものを作ろうという姿勢で、積極的に講師の方々と連携をとっていた。
- ・発表の場面でも、グループリーダーを中心に自信をもって発表していた。
- ・「一人一人が活躍する機会が与えられている」と考える生徒の割合が増えた。
昨年度：94% 今年度：97%（あてはまる・ややあてはまる、の総計） <生徒アンケート>
- ・「体験したことが、将来に役立つ」と答えた生徒の割合は学年が進むにつれて高くなっている。
1年：33% 2年：44% 3年：46% <生徒アンケート>

(2) 今後の課題

- ・地域の指導者の方々が高齢化し、指導者の確保が厳しい状況にある。
- ・生徒数の減少に伴い、体験学習の人数などの見直しをすることが必要である。
- ・新型コロナウイルスの影響で、地元の行事（和紙フェスティバル）や施設での発表の機会がなかったが、発信する機会を設けることができるとさらによい。



《成果発表会》

第57回「郷土を描く児童生徒美術展」

趣 旨 「郷土を描く児童生徒美術展」は、児童生徒が郷土を描き、その作品による展覧会を実施することによって、郷土埼玉に対する理解と認識を深め、郷土愛の高揚を図ろうとするもので、「埼玉県芸術文化祭2022地域文化事業」として行います。

主 催 埼玉県校外教育協会 埼玉県 埼玉県教育委員会 埼玉県芸術文化祭実行委員会

共 催 さいたま市教育委員会 埼玉縣市町村教育委員会連合会 埼玉県美術教育連盟

期 日 中央展覧会
令和4年12月24日(土)～12月25日(日) 10時00分～16時30分 (12月25日は16時00分まで)
知事賞作品120点を展示します。
受賞者名簿(知事賞・特選)は校外教育協会のHPに11月上旬に公開する予定です。

会 場 埼玉県立近代美術館
(さいたま市浦和区常盤9-30-1)
【電車】
JR京浜東北線北浦和駅西口徒歩3分(北浦和公園内)

関係者を除く一般の方への駐車場の開放は行いません。
御来場の際は、公共交通機関等の御利用をお願いします。

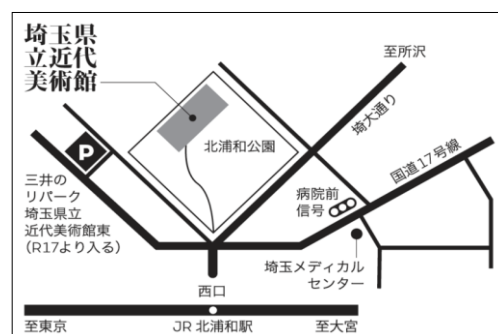



表 彰 優れた作品には、賞状を授与します。

【区分】
特選：約1,010点
(知事賞作品120点を含む。)
入選：約10,000点

知事賞受賞者を、「県民の日記念式典(11月14日(月)於・埼玉会館)」にて表彰します。

また、知事賞作品は「画集 埼玉子どもの絵」(埼玉新聞社発行)に掲載されます。

H P [埼玉県 校外教育](#) で [検索](#) 
すると協会のトップページから入れます。

～第56回美術展の作品から～



「みらいの広～いつるがしま」
鶴ヶ島市立鶴ヶ島第一小学校 2年 (当時)
秋山 爽菜 さん